



# 白河 提灯まつり

9月16日から18日までの3日間、白河提灯まつりが開催され、勇壮な行列と幻想的な提灯の明かりが、多くの観客を魅了しました。今月号では、提灯まつりの熱い様子を写真やインタビューでお届けします。

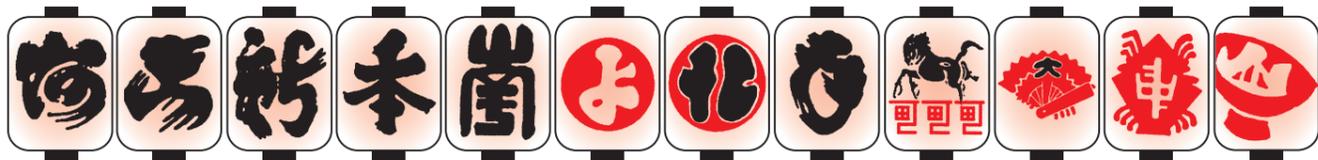


まつり2・3日目の昼間の時間帯は、子どもたちによる屋台や山車の引き回しや、町内渡御が行われました。楽しそうに屋台を引いたり、元氣にお囃子を奏でる子どもたちの様子は、夜の提灯まつりとは違った見どころのひとつです。また、各町の山車にはそれぞれ特徴があり、見事な彫刻の屋根飾りなど、提灯まつりの歴史と伝統を感じることが出来ます。

町内渡御は、袴姿の壮者が神社神輿をかついで次の町まで運びます。町から町へと神輿が引き継がれる際にもさまざまな口上と儀式があり、厳肅な雰囲気市内を進んでいきます。



1. 神橋を渡る神社神輿 2. 出発の儀式を終え、鹿嶋神社から運び出される神社神輿 3. 中学生の元気な高張提灯 4. 各町の提灯に灯がともされ、幻想的な雰囲気に包まれる境内 5. 神輿を先導する先達提灯 6. 壮者の手に持つ提灯の明かりが、阿武隈川の水面に揺れる渡河の様子



先達 大工町 新蔵町 本町 南町 横町 田町 年貢町 馬町 大町 中町 金屋町 (愛宕町)



天神町 昭和町 向寺 鍛冶町 道場町 丸の内 登町 会津町 旭町 中田 宮本 (桜町)

### まつりを通して成長する子どもたち



宮本壮者筆頭 水野谷和聖さん

提灯まつりは、伝統を重んじる厳しい面もありますが、子どもたちは2年に一度の開催をとても楽しみにしています。おはやし太鼓の練習が始まると、学校や年齢の違う子どもたちが一か所に集まり、あいさつや礼儀作法、昔ながらの伝統などを教えられます。提灯まつりを通して、地域の絆や誇り、互いに助け合う精神を学びながら、子どもたちは成長していきます。これも提灯まつりの素晴らしさであり、次の世代へ引き継いでいきたいと思ひます。

### まつりの魅力を広めるために



宮本氏子総代 須永敏行さん

桜町は、御旅所があり、神社に一番近い町であったことから宮本と呼ばれ、最後尾から行列を警護し、神輿を守り、祭事を取りまとめる役割を担っています。より良いまつりにしていこうと、これまでいくつかの新たな試みを実施してきました。氏子壮者会では、お囃子、お神輿、高張提灯など、まつりの雰囲気と魅力を子どもたちに伝えるため、今年も出前講座を実施しました。自分たちが楽しみ、市民や観光客も一緒に楽しめるまつりにしていくため、今後もまつりの魅力を広めていきたいと思ひます。

#### Interview

### まつりを終えて



神社境内での最後のお手打ちには、一つの目的に向かってやり遂げた充実感と地域で生まれ育った喜びにあふれた顔が並びました。私も今、白河提灯まつりが市民の心の拠りどころとして、老若男女多くの方々のご参加とご協力を得て、359年の歴史と伝統を継承できた安堵感とともに、感動を覚えています。胸を張り、竿の先端をじっと見つ

鹿嶋神社宮司 和知 延さん

めて上げ下げする先達提灯。神輿を担ぎ、川を渡る緊張した表情の壮者。屋台や山車の上で、笛や太鼓を精いっぱい演奏する子どもたち。その一つ一つの光景がまだしっかりと目に焼き付いています。このまつりのために、昼夜分かたずご尽力いただいた、すべての皆様にご礼を申し上げます。

### 受け継がれてきた歴史と伝統

日本三大提灯まつりの一つに数えられている白河提灯まつりは、正式には「鹿嶋神社祭礼渡御祭」といい、当地方の総鎮守として、古くから人々の信仰を集めてきた、鹿嶋神社の例大祭です。現在行われている神輿の内渡御・提灯行列・屋台や山車の引き廻し等のまつりの形態は、江戸時代初期の徳川家綱時代、藩主本多能登守忠義が神輿を寄進したことに始まると伝えられています。武家社会の格式を取り入れた、厳格な作法により執り行われる様々な儀式が最大の特徴で、別名「儀式まつり」とも呼ばれています。約360年にわたり、世代をこえて受け継がれてきた歴史と伝統を、次の世代へ継承しようとする方々の思いや引き継ぐ子どもたちの様子を紹介します。



1. 他の町との合同練習の様子。練習を通して、他町とのつきあい方も学びます 2. 先達提灯の先を見つめる目は真剣そのもの 3. 大人の笛にあわせて、お囃子太鼓の練習に打ち込む子どもたち 4. まず、靴をきれいにそろえることから練習が始まります 5. 威勢の良い掛け声が町内に響き渡ります 6. 先達提灯の技に磨きをかける厳しい練習は2か月間にも及びます

#### Interview

### 白河提灯まつりへの思い



わたなべ ちから 渡辺 力さん (本町/先達提灯係長)

本町は2本の先達提灯を、きれいにそろえて上げる妙技を磨いてきた町内です。練習は厳しいですが、伝統を自分たちが受け継ぎ、そして次の世代へと引き継いでいきたいと思ひます。



ふじたさいか 藤田彩香さん (桜町/白三小6年)

提灯まつりが大好きです。自分の町のお囃子曲があることを誇りに思ひます。お囃子での参加は今年が最後なので、練習も精いっぱいがんばりました。次回は高張提灯に挑戦したいです。